

2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第24回】 研究活動の振り返り

2026年2月17日（火）



生徒探究発表会 -成果と課題-

【成果 - 探究Dayからの飛躍的な成長 -】

1. エビデンスの確保と客観的な指標作り
2. 多角的な視点による論理(ロジック)の構築
3. 情報デザインと発表態度の進化

【今後に向けた課題 - さらなる「高み」を目指して -】

1. 学術表現の正確性と「一意性」の追求
2. 研究設計の妥当性と「背景変数」の考慮
3. 社会的文脈の深掘りと「社会への貢献」

成果 - 探究Dayからの飛躍的な成長 -

1. エビデンスの確保と客観的な指標作り

- 「証拠」の質と量の向上： 結論を支える事実の収集の徹底
- 独自の指標の作成： 主観的な概念を、数値や明確な判定基準に置き換え

2. 多角的な視点による論理(ロジック)の構築

- 「なぜ」を裏付ける理論展開： 先行研究と紐付けて多角的に説明
- 研究の型の習得： 自らの知見を既存の研究体系の中に位置づけ

3. 情報デザインと発表態度の進化

- 情報の視覚化： 聞き手の認知負荷を下げた「理解させる」ポスター
- 対話としての発信： 聴衆の反応を見ながら自分の言葉で熱意を持って伝える姿勢へ

今後に向けた課題 - さらなる「高み」を目指して -

1. 学術表現の正確性と「一意性」の追求

- 細かな記述の厳密化: 主語の欠如、助詞の使い方一つで意味が変わる怖さ
- 用語の「一意」な定義: 受け手が「たった一つの意味」にしか受け取れない表現

2. 研究設計の妥当性と「背景変数」の考慮

- 公平な比較: 検証したい要素「以外」の条件を厳密に揃えることを意識する。
- 多角的因子の検討: 結果に影響を与えた「隠れた要因」がないか疑う。

3. 社会的文脈の深掘りと「社会への貢献」

- 既存課題の背景の追究: その課題が今まで解決されなかった背景を分析する。
- 社会への還元: 自分の研究成果が、社会の「どの部分」に寄与するかの展望をもつ。

専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

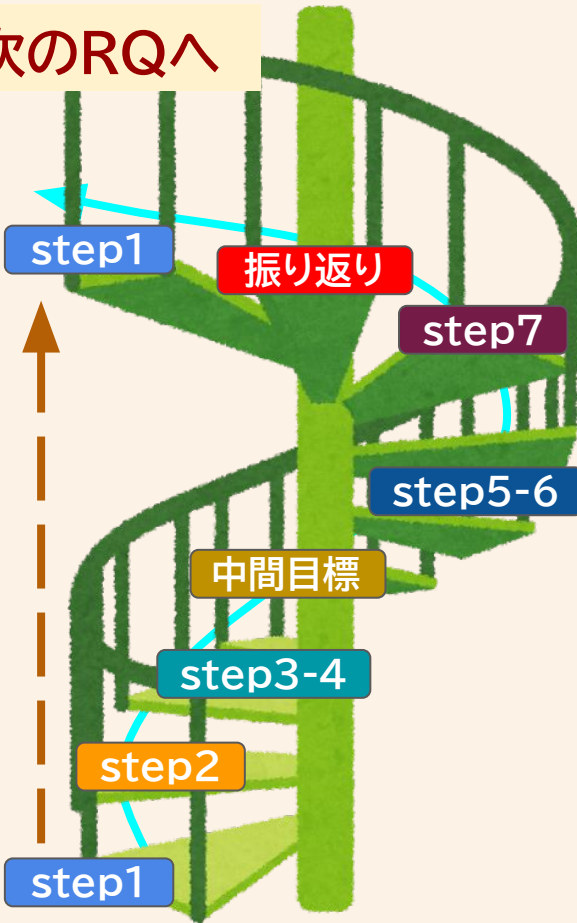
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

知識・技能	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
思考力・判断力・表現力	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
主体的に学習する態度	探究ノート(通年) 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月) 学年末の振り返り

探究のサイクルを促進する作業＝ふりかえり

研究に対するふりかえり

1. 探究Dayの課題を踏まえて、生徒探究発表会で意識したことは何か？
2. 質疑応答でどんな質問・意見・アドバイスがあった？
3. 生徒探究発表会を経て、研究テーマに関して新たに生じた疑問は？



探究
Day

過去



生徒探究
発表会

現在



未来



時間軸を意識しよう

研究計画書兼報告書を完成させよう

高校45期
SSI (総合探究)

研究計画書兼報告書

チーム番号

研究者氏名

※チームメンバー全員の氏名を記入

具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。

(1) 研究テーマ

(2) 研究背景 (研究動機やテーマについての先行研究、一般的な理解など)

(3) 研究目的

①リサーチエスチョン

《報告書にあたる部分》

前提!!(4)研究手法まで書けている？

(5)研究結果

(6)考察・結論

(7)今後の展望

研究成果がどのように
社会や学術へ貢献するか書く。

生徒探究発表会での質疑応答なども踏まえて、
チームで協力して完成させましょう。